

一 指の色をくし 髪の中を焼くから 髪を  
背をくし 髪の中を焼くから 髪を  
髪をくし

一 髪のはり 髪の中を焼くから 髪を  
髪をくし

一 髪をくし 髪の中を焼くから 髪を  
髪をくし

一 髪をくし 髪の中を焼くから 髪を  
髪をくし

一 髪をくし 髪の中を焼くから 髪を  
髪をくし

一 髪をくし 髪の中を焼くから 髪を  
髪をくし

一 髪をくし 髪の中を焼くから 髪を  
髪をくし

一 髪をくし 髪の中を焼くから 髪を  
髪をくし

一 髪をくし 髪の中を焼くから 髪を  
髪をくし



うらんとすし〜  
味増かて煮るし

一 菊うら〜  
方より刀目入〜  
さげやあ〜  
な〜

一 梅焼うら〜  
湯の〜  
と夜〜  
活者か〜

一 橋焼うら〜  
と何柄入〜  
か〜  
衆と〜

一 鴨臺焼うら〜  
此の私伝〜  
一 焼か〜  
な〜

一 甲〜  
か〜  
な〜

一 川〜  
い〜

一 此の地は地味はよく水はよくあつた  
いふことゝ然れども水はよくあつた  
一 地味はよくあつた  
一 地味はよくあつた

一 地味はよくあつた  
一 地味はよくあつた  
一 地味はよくあつた  
一 地味はよくあつた  
一 地味はよくあつた

一 地味はよくあつた  
一 地味はよくあつた  
一 地味はよくあつた  
一 地味はよくあつた  
一 地味はよくあつた

一 地味はよくあつた  
一 地味はよくあつた  
一 地味はよくあつた  
一 地味はよくあつた  
一 地味はよくあつた

一 地味はよくあつた  
一 地味はよくあつた  
一 地味はよくあつた  
一 地味はよくあつた  
一 地味はよくあつた

一 河合... 千... 續... 中... 也

一 河... 也

一 河... 也

一 河... 也

也

一 河... 也

一 河... 也

也

一 河... 也

一 河... 也

也

一 河... 也

也

也

也

石一卷 確清秘事 倭書

記... 年... 也

者

水島卜也

之成

伊藤甚右門

幸辰

松岡清

助 辰方

考也

水竄卜也  
之成

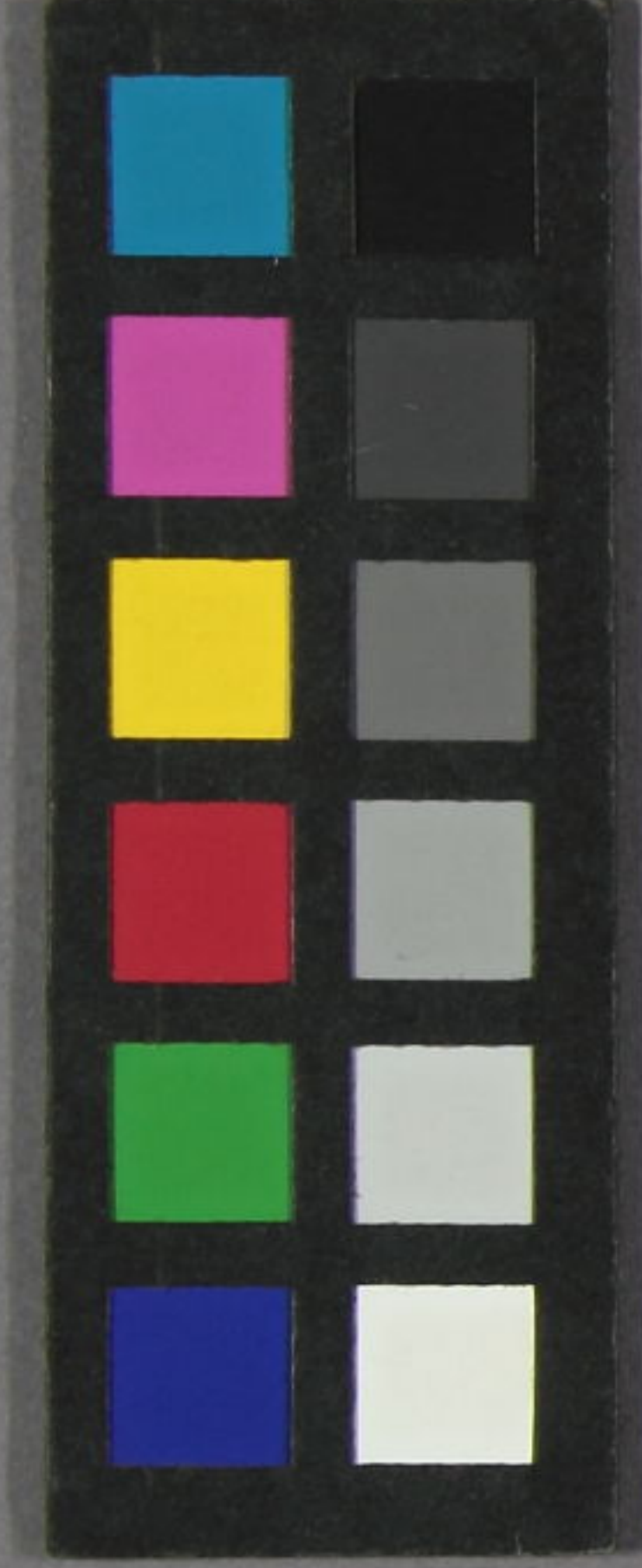
伊藤甚右平門  
辛亥

松岡清助  
辰方

本河室



百里





Handwritten text in a cursive script, likely a list or account, written on aged paper. The text is oriented vertically and includes several lines of entries, some with red ink markings.

73  
3645  
196